

彙報

京都大學文學部哲學科講義題目

—昭和二十五年度—

哲學

講義 山内教授 形成の哲學

講義 山内教授 自然美と藝術美

研究 大島講師 基礎的存在論の諸問題

演習 上田講師 科學的認識の問題

山内教授 哲學の諸問題

山内教授 Thomas: Summa Theologica

大島講師 Heidegger: Phänomenologie des Geistes (前學年の續き)

西洋哲學史

講義 田中教授 古代哲學史概説

講義 高田教授 中世哲學史概説

野田助教 近世哲學史概説

研究 田中教授 プラトン哲學の發展とアリストテレス哲學の成立

高田教授 Augustinus: Confessiones (前學年の續き)

演習

野田助教 野カハト哲學研究

エケリ講師 眞理——トトマスの認識論——

田中教授 Platon: Politika, VII-X

田中教授 Platon: Apologia Socratis (「哲學」演習と共に)

高田教授 Thomas: Commentaria in Aristotelis Metaphysicam (前學年の續き)

高田教授 Thomas: Quaestiones de Veritate

高田教授 Thomas: Quaestiones de Veritate

野田助教 ラマノ語文法 (「哲學演習と共に」)

野田助教 Kant: Kritik der praktischen Vernunft (前學年の續き)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

三村講師 Kant: Kritik der Urteilskraft (Kritik der teleologischen Urteilskraft 40)

印度哲學史

講義 松尼助教 印度哲學史

研究 松尼助教 婆伽梵歌の哲學 (前學年の續き)

研究 佐保田講師 數論 (Sankhya) 思想の起源

演習 松尼助教 Yacspatinsira: Sankhya-tatvaka-

研究 松尼助教 mudi (前學年の續き)

研究 松尼助教 Sadamanda: Vedanta-Sara

支那哲學史

講義 重澤教授 支那思想史

研究 重澤教授 文獻批判の精神

演習 重澤教授 杜佑通典 (前學年の續き)

重澤 教授 漢書玉蓉傳
森 講師 禮記注疏

心理學

講義 矢田部 教授 心理學概論
研究 矢田部 教授 現代心理學の諸問題

和川 講師 知覺心理學研究
矢田部 講師 心理學上級實驗
矢田部 講師 心理學初級實驗

講義 井鳥 教授 美學序論
研究 井鳥 教授 藝術史論
上野 講師 日本美術と佛教
吉川 講師 西歐におけるロマネスク美術
井鳥 教授 Kant: Kritik der Urteilskraft (前學年の續き)

八木 講師 外國心理學書講讀(上級)
八木 講師 外國心理學書講讀(初級)

倫理學

講義 鳥 教授 倫理學概論
研究 鳥 教授 封建社會の倫理

保田 講師 古代支那に於ける人性説の研究
鳥 教授 Schelling: Das Wesen der menschlichen Freiheit

講義 白井 教授 社會學概論
研究 白井 教授 日本村落の研究
江藤 講師 Community 論攷
白井 教授 社會學の諸問題
姫岡 講師 Maclver, R. M.: Society, a Text-book of Sociology

教育學・教授法

講義 下程 教授 教育原理 I (教育學概論)
正木 講師 教育心理學(二學期から)

研究 下程 教授 教育哲學(教育の人間學的基礎)
廣岡 講師 教育原理 II (カリキュラム)

演習 黒丸 講師 教育原理 III (ガイダンス)
下程 教授 教科教授法(社會科教授法)

Dewey: Experience and Education

講義 武内 助教授 宗教學概論
研究 武内 助教授 原始佛教の宗教哲學的省察
榎瀬 講師 他界觀念の研究
演習 武内 助教授 Hegel: Vorlesungen über die Philosophie der Religion (前學年S續き)

宗教學

講義 長尾 助教 佛教學序說

哲學研究 第三百九十四號

研究	山口 講師	大乘成業論の研究
塚本 講師	漢譯佛敎圖に於ける諸問題	
演習	長 尼 助教	攝大乘論
	基 督 教 學	
講義	有 賀 教授	基督教學序論
研究	有 賀 教授	初期基督教に於けるグノーシスの問題
	山 崎 講師	舊約聖書研究
演習	有 賀 教授	原典新約聖書の研究

美學會の發足

戰後既に五年を経過したが、一時停滞した我國文化研究も漸く復興の氣運が見えはじめるに至つた。此處に美及び藝術を對象とする美學の研究も次第に活潑となり、遂に今回はじめて全國的組織を持つ「美學會」が成立することとなつた。その性質上多岐多端なる分野を持つ美學が、これまで統一的な學會を持たなかつたことは、研究の総合的成果を不十分ならしめてゐたことと思ひ合せて、まことに不思議といふはかばかない。この學會は「美學會」と稱し、ひろく美學に關する研究を行ひ、その發達を圖ることを目的とする。事業としては雜誌及び出版物の發行、總會・研究例會・公開講演會の開催、見學その他本學會の目的を達成するに必要な事業が擧げられるのであるが、既に季刊雜誌「美學」第一號、第二號が刊行され、更に第三號が編輯されつつある。從來とかく分散的であつた美學界に交流の途

を開き、諸般の力を結集して、斯學の一層の發達を期してゐる。ために掲載論文も一冊藝術學・造形藝術論・音樂美學・文學・演劇論・映畫論等、廣汎な範圍に亘る筈である。

美學に關する研究に従事し、且委員會の承認を經たものは本會員となる事が出来る。役員は顧問・委員・幹事若干名となつてをり、任期二年の委員の中より互選によつて二名が選出され、本會を代表する。一般事務は東京大學文學部美學研究室で取扱はれ、都會としては東京都會と東京都會とが差當り設けられてをり、それぞれ東京大學文學部美學研究室、京都大學文學部美學美術史研究室が事務を扱つてゐる。

第一期の委員及び幹事は便宜上左の諸氏に委嘱された。

委員 今泉篤男(京都大學)、大西昇(早稻田大學)、加藤成之(東京藝術大學)、金田崖(慶應大學)、河本敦夫(京都工藝纖維大學)、吉川英士(東京大學)、佐和隆研(京都市立美術大學)、岡頼三(同志社大學)、竹内敏雄(東京大學)、龍村謙(龍村織物美術研究所)、谷日鐵雄(九州大學)、谷田開次(大和文華館)、張源群(關西學院大學)、徳永郁介(熊本女子大學)、中井正一(國立國會圖書館)、中野勇、稻崎宗重(立正大學)、野村真雄(上智大學、東京大學)、村田謙(東北大學)、村田真策(東京藝術大學)、山際靖(日本大學)、山田肇(明治大學)、井島勉(京都大學)、遠藤宏(北海道大學)

幹事 今井清(京都大學)、金田民夫(京都大學)、北島當道(京都大學)、木楢禎夫(東京大學)、眞生一郎(東京大學)、山本正男(東京大學)

美學會委員會の議により左の四氏を顧問に推戴した。

阿部次郎、上野直昭、植田壽藏、大西克禮 (五十音順)

京都部會では六月十六日第一回委員會を開き、更に六月二十日京都部會第一回總會を醍醐寺で行つた。當日は京都工藝織維大學教授河本敦夫氏の「宗教藝術について」、並びに京都美術大學教授佐和隆研氏の「醍醐寺の美術について」と題する講演があり、更に法界寺・醍醐靈寶館の寶物見學が行はれた。當日は雨天にもかかわらず京都大學・關西學院大學・同志社大學等、關西在住の各會員學生が參加し、五十名を越える盛會を見た。秋には美學會第一回總會を開催する計畫が進められてをり、例會・研究會も逐次開かれる豫定であるが、廣く好學の士の御協力を願つて已まない。入會希望者は前記部會宛てその旨申込まれたい。

因に雜誌「美學」第一號並びに第二號掲載論文を紹介しよう。

第一號

否定の美 近代の美の方向

植田 壽藏

セザンヌの藝術觀

村田 潔

ロマン派と音樂

野村 真雄

古典主義的美學に於ける自然の概念について

金田 民夫

— シラーの美學思想に關聯して —

第二號

蘇東坡の美術思想

矢代 幸雄

笑のカタルシス?

竹内 敏雄

美的感情の意味 — カント美學を中心として —

西田 秀穂

美的主體の成立 — フリードラフに關聯して — 今井 清 (今井)

倫理學研究會例會

五月二十日(土)午後一時

於 京大文學部第二演習室

立命館大學文學部教授山元一郎氏が「ニイチエに於ける人間の問題」と題して研究發表、その要旨は次のやうなものであつた。

組織的體系を有しないニイチエの思想に關し、人間の問題を手懸りとして、積極的に哲學として何を主張したかを見る。彼に於ては人間とは克服さるべきものであり、人間は自己の運命をかけて實驗し、自己を實驗的に作つて行くものである。「私是一個の運命である」とは彼の自傳を貫く不動の信念であつた。運命愛に於て運命的な自己喪失は運命的な自己回歸に到達する。彼にあつては永久回歸と運命愛の説は決して別々の思想ではなく、運命の回歸以外には運命愛も永久回歸も無意味であらう。ニイチエはルネッサンスの人間の外延的把握とは異り、人間を運命愛の立場に於て把握した。死にゆく運命の愛に於ける *über sich zu sich kommen*こそ、失はるゝ自己の永遠なる回歸即ち本來の永久回歸に外ならぬ。主體的に運命愛に於て斷絶を超えて自己自身となる自己同一、そこに人間は人格として成立する。ニイチエに於ける倫理的善・價值は刻々に悔恨のない

事であると思ふ。

六月十七日(土)午後一時

於 京大文學部第二演習室

本學人文科學研究所助教授坂田吉雄氏が「明治維新史と階級史觀」と題して研究發表をされ、その要旨は次の如きものであつた。

階級闘争の立場から明治維新を説く歴史觀にも種々あり、その契機を農民、下級武士、郷士、マニユフアクチャーブルジョアジー等に認める立場が存するが、かゝる階級史觀からしては變革は説明しつくされぬ。明治維新を説く時、對外關係は輕視されてはならぬ。勿論經濟的發展をも認めぬわけではないが、政治的機構の變革といふ上からの政策により經濟的發展が要求されたものであり、身分制の打破が中心をなしてゐる。明治維新の近代性は官僚の出現にあり、この出現は經濟的發展を條件とはするが經濟的發展の結果ではない。明治維新は階級闘争による封建制の打破ではなく、寧ろ身分制の崩壞が中心をなし、従つて階級史觀からしては説明しつくす事は出来ない。

(肥 後)

前 號 目 次

宗教的實存の實存的課題……………	石津 照 靈
—キェルケゴール諸著作の位置と意義—	
アリストテレス存在論の基礎構造について(完)……………	岡野 留次郎
思辨論理の可能性に就いて(承前)……………	山本 清幸

寄贈雜誌論文目次

人文論究 (關西學院大學論文集)

宗教的意識
 實業主義の諸傾向
 プロテスタントリズムの本質
 人間の條件反射
 ソカール派の教育科學的研究
 社會學主義の諸問題
 近世歌壇に於ける新古今主義
 ハイットマンとホフキス
 Notes on the Language of John
 Sars Journal
 中國の詩歌に現れたる哀感美
 「ルネ」の構成について
 獨逸學界の繪畫とゲーテ

美學 (美學會) 第一號 (二十五年三月)
 否定の美—近代の美の方向—
 ゼザンスの藝術觀
 ロマン派と音樂
 古典主義的美學における自然の概念について
 シンラーの美學思想に關する一論文
 小林鴎觀の藝術に就て
 現代美學の歩み(一)—歐米最近の論文から—

山形大學紀要 (山形大學) 第一號 (三月)
 ブレンドラーとフツセルの内部知覺論について
 ゴットフリッド・ケラー論—ゼルトルツの
 人々を中心として—
 明代後長の中國における役割
 日清戰爭の中國に及ぼした影響について—當時
 の中國人の時局觀を中心として— 佐藤三
 羽張飛鳥の人口問題
 埼玉縣熊谷附近の方言に關する二三の古語
 山形大學

心理學研究 (日本心理學會)
 第二十卷第二號 (三月)
 「形の恒常現象」實驗方法に於ける一つの問題
 倒立視に關する實驗的研究(自)

片山正直
 張浦忠雄
 相澤潤三
 古武潤正
 大道安次郎
 志賀實
 實方勝博
 F. Ohnaka
 杉本行夫
 田中俊一
 玉林肇義
 村田謙藏
 植田謙藏
 野村良雄
 野村良雄
 田金田民夫
 村野宗重
 渡邊隆
 坂本智吉
 佐吉勇夫
 星一夫
 佐藤三郎
 長井政太郎
 田島重雄

叢報

視野戰爭に及ぼす先行條件の效果(1)

色の見かけ上の濃さと重さに就いて
 なかま及び指導者の理想性格の研究
 青年期に於ける虛榮的傾向に就いて
 小川一子
 木村俊夫
 阿部輝四郎
 藤本正徳
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

哲學年報 (九州大學哲學研究會)
 第八輯 (三月)
 莊子「天籟」研究(上)
 「ヘーゲル」哲學に於ける民族精神
 「方法論」(Taktik von Th. Macho)として
 の純理推理性研究
 小川一子
 木村俊夫
 阿部輝四郎
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

文化 (東北大學文學會)
 第二卷第一號 (三月)
 魯賓深の先例
 秘密タレントラにおけるチニヤナパダ海に
 ついて
 原曲批判への一論議
 司馬遷に於ける利己心及び富の問題
 令利より見たる日華村落の成立過程
 小川一子
 木村俊夫
 阿部輝四郎
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

哲學雜誌 (東京大學哲學會)
 第六十五卷第七〇五號 (三月)
 「デカルト」思想と近代合衆主義
 「デカルト」思想と近代合衆主義
 説「第一」部末尾の解釋—
 碑の存在の第三の證明について
 デカルトの「探物學」—數學史を背景として—
 RABINOWITZ
 遊アウグスチヌスとデカルト
 デカルトとライブニッツにおける合理主義
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

史學雜誌 (東京大學文學部・史學會)
 第五十九卷第四號 (四月)
 アメリカ哲學界の動向
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

發生當初の基督敎に於けるニダヤの要素につ

漢代の節度と禮樂
 自由市場の成立について
 農村傳説
 史學雜誌 第五十九卷第五號 (五月)
 「匈奴」の國家
 一九四九年の歴史學界(回顧と展望)
 經濟論叢 (東京大學經濟學會)
 第六十五卷第四・五號 (五月)
 原田の「經濟論」について
 抽象的勞動に於ける若干の問題
 經濟學經濟學に於ける經濟性概念について
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

密敎文化 (高野山大學・密敎研究會)
 第九・十號 (五月)
 近世日本密敎教學史(一七)—特に室町時代以降—
 安達道雄論三十頌禪、開伏天燈唯識三十頌禪
 文殊師利菩薩の觀音(三)
 經藏に於て編纂せられたる巴利語の佛經
 無動菩薩觀音木大日經義釋
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

一橋論叢 (東京商科大学・一橋學會)
 第二十三卷第五號 (五月)
 新中國における貨幣經濟の地位
 中國土地改革の二つの時期
 一橋論叢 第二十三卷第六號 (六月)
 ホップスと自然法思想
 アリストテレスの「プロトレプティクス」(哲學
 への勸誘)について
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

國立國會圖書館年報 (國立國會圖書館)
 第三十七號 (三月)
 昭和二十三年年度
 收書通報 (國立國會圖書館)
 第十七號 (四月) 第十八號 (五月)
 讀書春秋 (國立國會圖書館・春秋會)
 第一號 (四月) 第二號 (五月)
 藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂

藤本正徳
 藤本正徳
 今村茂